

「決戦」



連勝で締めくりシリーズは3位に #448



一歩チャンピオンには届かず #45



こちらも2勝を挙げたが及ばず #74



シリーズ7位 #149



最終戦はしぶとく5位でタイトルに #210

仲間たちとの絆、そして最後の戦い一年間続いた長い戦いも、最終局面に向かって佳境に入っており、ますます盛り上がる。実に面白くて目が離せない！
紀州の山里で隠遁生活をしていた信繁は名を幸村と改め、太閤秀吉や家族たちへの様々な思いとともに、最後の戦いの地大阪へと向かう…あれっ(^_^;)

そんな戦国の戦いに負けず劣らず、幾多のチームが激戦を繰り広げてきた2016K 耐久東海シリーズもいよいよシーズン最後の戦い、最後に笑うのは真田か徳川か！？

西浦秋の陣、決戦の空模様は波乱含みの曇天。この雨雲を吹き払い晴天の笑顔を見せるのはどのチームか！！ 兵(つわもの)達の宴が始まる。

「NN-B」クラス(軽NAのノーマルクラス ビギナー)

ビギナークラスはチャンピオンの可能性があるのは、現在トップを行く#210「ZEST 遠心ミラ DXL」。2位の#45「インフィニティーアルト」に16Pの差をつけており幾分余裕がある様にも見えるが、リタイヤ無得点は絶対にNGだ。

一方#45のほうは勝利が絶対条件。2位以下では、#210には追いつけない。一戦空けての出場となる#74「アルジェンタートアルト」、前戦初優勝で勢いに乗る#448「スピアヘッドミニカ」など強敵ぞろいの全5チームが出走。

■予選

雨こそ降ってはいないが、路面はウエットの予選でトップタイムは#149「K4EP アルト 149R」1' 14.167、前戦に続きクラストップを獲得。この時は2位に相当する周回を走りながらアンダータイムで失格となっており悔しい思いをした。

2位は#74「アルジェンタートアルト」1' 16.847、3位#448「スピアヘッドミニカ」1' 17.702。4位#210「ZEST 遠心ミラ DXL」1' 18.163、#45「インフィニティーアルト」1' 19.929。なんとチャンピオンを争う2台が下位からのスタートということに、これは運命のイタズラか？それとも三谷喜ばりの脚本家の仕業か！？

■序盤

ウエットに加え、オイルがかすかに浮く難しい路面コンディション。各クラスでスピンがターン1を中心に続出。そんな中で序盤はほぼ同一周回で先陣争い。#45「インフィニティーアルト」、#448「スピアヘッドミニカ」、#74「アルジェンタートアルト」あたりがまず上位陣を形成。#210「ZEST 遠心ミラ DXL」は4番手を走行、ここからどう動くか。5番手は、予選トップの#149「K4EP アルト 149R」でレースは始まった。

■中盤

中盤でも上位と下位の差はあまり広がらない。トップは#45「インフィニティーアルト」、2位#448「スピアヘッドミニカ」、3位には#210「ZEST 遠心ミラ DXL」が上がる。#74「アルジェンタートアルト」が4位、#149「K4EP アルト 149R」が5位。#45「インフィニティーアルト」は優勝が絶対条件のためこのまま走りたいが、僅差のNN-Bクラスではそこまでマージンを広げることが出来ない。#210「ZEST 遠心ミラ DXL」は完走すれば、初のチャンピオンに大きく近づく。

Race Report



■終盤

残り1時間の時点で、トップにあがったのは#448「スピアヘッドミニカ」で85Lap。2位に下がった#45「インフィニティーアルト」84Lap、まだまだ逆転のチャンスはある。#74「アルジェンタートアルト」が84Lapで3位。

4位#210「ZEST 遠心ミラ DXL」83Lap、5位83Lap。

この頃になると、気温こそ上がらないものの路面はほぼドライに、このまま最後まで持つのか天候の方も気になる。

■最終結果

今季最終戦を勝利で飾ったのは#448「スピアヘッドミニカ」。第4戦に続く連勝で締めくくった。2位は#45「インフィニティーアルト」1Lap及ばず。3位#74「アルジェンタートアルト」とここまでが表彰台。

4位は#149「K4EP アルト 149R」、一旦は最下位となったが一つ挽回した。

そして5位ながら#210「ZEST 遠心ミラ DXL」が完走したことで、初めてのチャンピオンに！

今回は難しいコンディションとなったが、ペナルティがなかったのは評価できる。

■総評

今季より参加の#210「ZEST 遠心ミラ DXL」、終わってみれば優勝は開幕戦のみ。あとはコンスタントにポイント稼ぎ、シリーズ2位の#45「インフィニティーアルト」に9Pの差をつけそのまま初戴冠となった。

シリーズ3位には終盤の2連勝でポイントを上げてきた#448「スピアヘッドミニカ」、マイナーな車種でありながら見事な走り。トップとは13P差、開幕戦から出ていればどうなったか...

乱暴な言い方だが、優勝と完走扱いの差が、開幕戦では8Lapあったものが最終戦ではわずか2Lap。天候やレース展開などもあるがビギナークラスといえども、ここまで接近した戦いになっており各ドライバー・チームが成長した証とも言える。さて次はどんなステップを踏むのか楽しみだ。



いたるところで僅差のバトル



ビギナークラス



年間表彰



初参加でチャンピオン！！



今季初優勝！ #16



最速ではなかったが強かった お見事！ #5



最後と言わず、ぜひカムバックを！ #88



最速だったが… #10



「NN-E」クラス（軽NAのノーマルクラス エキスパート）

ノーマルの「エキスパート」クラス、第4戦を終えた時点で#10「FAST OUT 最速アルト」が74P。追いかける#5「Baden PROJECT K アルト」が67Pとじわじわと差を詰めてきた。勝利数では2勝を挙げている#10が優勢だが、戦の予想は信繁の父で稀代の知将と知られる真田昌幸ですら読み切ることは難しいのだ。他には#16「愛知工科大 DXL アルト 2号」も含め4台がエントリー。

■予選

予選トップは#10「FAST OUT 最速アルト 23V」1' 13.232、チャンピオンに向けて最高のポジション。優勝すれば文句なし、2位以上に入れば王座だ。2位は#5「Baden PROJECT K アルト」1' 14.886、自力逆転には優勝が不可欠。3位は#88「今年で解散おんぼろトウディ」が1' 15.816、最後だなんて言わないで好タイム。#16「愛知工科大 DXL アルト 2号」は予選の接触アクシデントでタイム計測できず、最後列からスタート。ただし、マシンの修復は完了しており問題ない。

■序盤

NN-Bもマシン差は少なく、最初のスティントから接戦。トップは#10「FAST OUT 最速アルト」、このまま行けばタイトルだがまだそれを言うのは早いか。2位走行は#88「今年で解散おんぼろトウディ」がつけ、予選タイムなしだった#16「愛知工科大 DXL アルト 2号」が3位。予選アクシデントの影響は心配ないようだ。逆転チャンプを狙う#5「Baden PROJECT K アルト」だが序盤にスピンを連発、少々出遅れた格好。ここから巻き返したら最高にドラマチックなのだが…

■中盤

中盤でも首位は#10「FAST OUT 最速アルト」、2位#16「愛知工科大 DXL アルト 2号」に3Lapの差をつける。3位は#88「今年で解散おんぼろトウディ」。#5「Baden PROJECT K アルト」、順位こそ4位だが、周回差は1Lapとその差は着実に詰まってきている。

■終盤

レースも後半戦に入りかけ、タイトルの行方が見えかけたと思った瞬間…#10「FAST OUT 最速アルト」がターン1でコースアウト！フロントサスペンションのトラブルだが、SCを招くりタイヤ！！チャンピオンに赤信号。これによりトップは#16「愛知工科大 DXL アルト 2号」。2位は#5「Baden PROJECT K アルト」、#5はこのまま完走すれば逆転チャンピオン。しかしこちらにも何が起こるかかわからない。3位は#88「今年で解散おんぼろトウディ」、優勝経験もあるチーム。最後の一発優勝をと虎視眈々と狙う。

■最終結果

さあチェッカー、最終戦を制したのは#16「愛知工科大 DXL アルト 2号」、予選のアクシデントを乗り越え、見事チェッカー。#16のメンバーとしては初優勝で、有終の美を飾った。2位は今回も1Lap差で初優勝を逃した#5「Baden PROJECT K アルト」だったが、年間チャンピオンという大きな称号を手にした。3位は#88「今年で解散おんぼろトウディ」、優勝した第3戦に続き見事表彰台で締めくくった。今年で最後なんて言わないで、ぜひ！惜しかったのは#10「FAST OUT 最速アルト」、開幕連勝で唯一の2勝をマークしたチームだったが…

Race Report



■総評

まさに戦は終わってみなければわからない！ここは事前の形勢では西軍有利と思われていた関が原なのか！？もうそこまで手にしていたタイトルが、#10「FAST OUT 最速アルト」のもとから#5「Baden PROJECT K アルト」に。その#5「Baden PROJECT K アルト」は最高位は2位どまりだったが、全戦表彰台に登り、着実にポイントを積み重ねるという、派手さはないが、まさに家康のような粘りのレース運びがNN-Eの天下を取った！

今期から始まったNNクラスの2分割、マシンレギュレーションは同一ながら、オーバータイム制などもあって見どころも多かったのではないだろうか。そしてNN-Eクラスの速さも光る。レース中の最速タイムでは10秒切りも珍しくなく、全体のレベルアップが図られているのを実感するシーズンであった。来季はますます盛り上がるNNの両クラスにさらに期待したい。



エキスパートクラス



年間表彰



クラスチェンジで初優勝！！ #13



攻め立てたが、下克上ならず #66



タイトル防衛！！ V6！ #25



来季への手応えは掴んだ #91



NCクラス（軽NAのクロズドクラス）

第3戦で並んだ上位2チームの争いは、第4戦で、#25「アカミネコマル 2トゥディ」が王者の底力を見せつけて今季3勝目をマーク、5Pのリードへと変わった。前人未到のV6を目指す#25は自らの王道を行くのみ。

一方、下克上を狙うのは#66「VISCONTI トゥディ」。逆転を果たすためには優勝が絶対条件、その上で#25が3位以下という場合のみ。厳しい条件ではあるが、東洋の地にヴィスコンティ家の王朝を打ち立てるためには、まずは勝利こそが必要だ。この最終戦には初参加の#882「ないとエッセ」も含め全6台のエントリー。

■予選

予選トップは#950「KSS-TODAY」1' 12.247、初のクラストップを獲得。2位は#66「VISCONTI トゥディ」1' 14.137、逆転勝利へのシナリオは描けているか。予選3位#25「アカミネコマル 2トゥディ」1' 14.442、ウエイトの影響はどうか。2位以上なら決まり。4位は#13「愛知工科大アルトスペシャル」1' 14.674、クラスをNCにチェンジしての参戦。5位#91「BRP★KC アルトバン NA」1' 16.389。6位マシン不調からかタイム計測が出来なかった#882「ないとエッセ」だが、決勝には駒を進めることに。

■序盤

最初のスティントでまずピット・インしたのは#66「VISCONTI トゥディ」と#25「アカミネコマル 2トゥディ」。チャンピオンを争う2台が序盤から火花を散らす。#66 スタート直後にオイルの浮いたターン1でスピンを喫するが大事に至らず胸をなでおろす。その間にトップに立ったのは#13「愛知工科大アルトスペシャル」、もともとのポテンシャルは高いチーム、チャンピオン争いのキーとなるか。

2番手は#91「BRP★KC アルトバン NA」、こちらもあなどれない。その後に#950「KSS-TODAY」、#882「ないとエッセ」。

■中盤

中盤でトップに立ったのは#66「VISCONTI トゥディ」、タイトルのためには何が何でも優勝だが、すぐ後ろには#13「愛知工科大アルトスペシャル」がつけており予断を許さない。一方#25「アカミネコマル 2トゥディ」はこの時点では5位走行、自分たちのピット戦略を着実にこなしていく。

3番手は#950「KSS-TODAY」、4番手#91「BRP★KC アルトバン NA」の順。#882「ないとエッセ」は一旦はペースを掴んだかのように見えたが、思うように波に乗れていないか、先行車とのギャップが開き始めた。

■終盤

終盤でトップを行くのは#13「愛知工科大アルトスペシャル」、それを追うのは#91「BRP★KC アルトバン NA」。チャンピオン争いの2台は3位#25「アカミネコマル 2トゥディ」、4位#66「VISCONTI トゥディ」。#66はこのままでは厳しい。

5位#950「KSS-TODAY」まではトップから5Lap差、まだまだひと波乱があるか。#882「ないとエッセ」は苦しみながらも周回数を増やしており、なんとか完走まで持っていきたいところだ。

シーズンの長い戦いも残り一時間、最後まで気を引き締めていきたい。

Race Report



■最終結果

今シーズンの最後を飾ったのは、#13「愛知工科大アルトスペシャル」。クラス変更のレースを初優勝で締めくくった。

2位は#66「VISCONTI トウディ」、3位#25「アカミネコマル 2 トウディ」となったことで、王座防衛という結果。

4位は#91「BRP★KC アルトバン NA」上位が強い中でシーズン3位に。5位#950「KSS-TODAY」こちらも健闘。#882「ないとエッセ」は見事に規定周回数をクリアしての完走。

■総評

またも絶対王者が防衛！これで V6 となった。一方惜しいところまで追い詰めた#66「VISCONTI トウディ」は 2P 及ばず厚い壁に阻まれた。シリーズ 3 位の#91「BRP★KC アルトバン NA」と 4 位の#950「KSS-TODAY」も光るところを見せたシーズンだった。またクラスチェンジで初優勝した愛知工科大は 2 クラス制覇となった。

来季への展望だが、新規格アルトを走らせる「BRP★KC アルトバン NA」のさらなるバージョンアップがあるのか。ここまで君臨してきた絶対王政を覆し新たな天下人となるチームが現れるのか…それまで待ちは刀を研ぐに違いない。



こちらも来季への期待が増す #950



見事完走 #882



NC クラス



年間表彰

Race Report



準パーフェクト！ #38



シリーズ 2 位 #34



今回は完走ならず残念 #35



またも後ろ姿を見せつけ、無敵の王者の風格



NOクラス（軽NAのオープンクラス）

第 4 戦でタイトルを決めた#38「デモリッションエグゼトウディ」、今回も勝ってシーズンの有終の美を飾れるか。3 台とも完走を果たしてほしい。

■予選

予選トップは、#38「デモリッションエグゼトウディ」1' 10.800。2 番手は#34「JK ガチャピントウディ」1' 15.008、3 番手は#35「JK ブルビート」1' 19.122。

■序盤

まずトップを奪ったのは#38「デモリッションエグゼトウディ」、そして早めのピットイン。その間にトップに立つのは#34「JK ガチャピントウディ」。で 2 位に#38「デモリッションエグゼトウディ」。気になるのは 3 位は#35「JK ブルビート」で、スタートからペースががらない。リヤフードを開けてのチェックの光景が見られる。

■中盤

中盤は#38「デモリッションエグゼトウディ」の一人旅。2 位#34「JK ガチャピントウディ」も食い下がるが、じわじわさを広げる。3 位#35「JK ブルビート」は心配な状況だ。

■終盤

終盤になっても手綱を緩めない#38「デモリッションエグゼトウディ」は、今回も総合トップを争う。2 位#34「JK ガチャピントウディ」も総合トップ 10 圏内で走行中。#35「JK ブルビート」には今回もトラブルが襲う…前回は完走だったが、今回はどうか。

■最終結果

#38「デモリッションエグゼトウディ」がトップでゴール！見事締めくくった。#34「JK ガチャピントウディ」が 2 位。#35「JK ブルビート」、今回は残念ながらリタイア。

■総評

#38「デモリッションエグゼトウディ」は第 3 戦以外は優勝という結果。#34「JK ガチャピントウディ」がシリーズ 2 位、3 位にはその第 3 戦に優勝した#3「CRAZZYZYトウディ」。まだこのクラスは旧規格車が主流だが、ここにアルトなどが入ってくるのか注目だ。



NO クラス



年間表彰





見事 2 連覇達成！！ #330



あと一歩及ばずシリーズともに 2 位 #28



3 位表彰台 #93



またまた表彰台まであと一歩 #95



序盤の連続スピンから完走 #69

TCクラス（軽過給機のクロード）

前戦で連勝が止まった#330「DIXCEL コンパノミラ」だが、13P 差をつけて堂々のランク首位。それに対するのは#28「BLAST ヴィヴィオ」、待望の初優勝を飾り最終戦に乗り込む。一発逆転の戦略はあるか。今シーズン戦ったすべてのチームが参加する全 7 台の豪華顔ぶれだ。

■予選

予選トップは#28「BLAST ヴィヴィオ」、1' 08.395、難しいコンディションのなか、見事全体のトップタイムを記録。逆転チャンプに最高のスタート。

2 位は#330「DIXCEL コンパノミラ」1' 11.845、ベテランの余裕。3 位#69「モモヤマレーシングアルト」1' 13.084、第 3 戦では予選をまとめられなかったのが今回は一安心か。4 位#95「KHK KEI」1' 13.633。5 位#93「藤枝マリンダイビングアルト」1' 15.209、6 位#112「白須賀会カプチーノ」1' 17.539、7 位#392「Zammers ヴィヴィオ」1' 17.904、どのチームも経験と実力を兼ね備えたツワモノ達だ。

■序盤

スタート直後の滑りやすい路面を切り抜けた#28「BLAST ヴィヴィオ」がまずトップに立つ。後続は#93「藤枝マリンダイビングアルト」が 2 位、#330「DIXCEL コンパノミラ」が 3 位。その後ろは 4 位#95「KHK KEI」、5 位#112「白須賀会カプチーノ」。6 位#69「モモヤマレーシングアルト」はスピン、7 位#392「Zammers ヴィヴィオ」はコースアウトから回収と下位 2 台はコンディションに翻弄された。

■中盤

中盤でも時折コースアウトが見られる厳しいレース。そんな中でトップを守るのは#28「BLAST ヴィヴィオ」、それを#330「DIXCEL コンパノミラ」が追う。#28 はまずは勝つことが前提だ。

3 位は#93「藤枝マリンダイビングアルト」、4 位#95「KHK KEI」、そして序盤のコースアウトから無事復帰した#392「Zammers ヴィヴィオ」が 5 位走行。6 位は唯一の FR をコントロール#112「白須賀会カプチーノ」、7 位#69「モモヤマレーシングアルト」。

■終盤

ゴールまで残り一時間、#28「BLAST ヴィヴィオ」がトップを行く。が、2 番手には#330「DIXCEL コンパノミラ」が 1 Lap 差でマーク。#28 はもっとマージンをつけないと#330 にひっくり返される。#95「KHK KEI」と#93「藤枝マリンダイビングアルト」が同一周回で 3 番手争い。中団グループは 5 位#392「Zammers ヴィヴィオ」と#69「モモヤマレーシングアルト」。7 位#112「白須賀会カプチーノ」は周回数の伸びが鈍いが、このまま踏ん張りたい。

優勝争いはチャンピオンを争う 2 台、そして 3 位表彰台争いもその次の 2 台に絞られてきたか。だが、勝負は馬（マシン）を降り、そして兜（いやヘルメット）を脱ぐまでわからないぞ。



Race Report



■最終結果

今回も予想通り#330「DIXCEL コンパノミラ」が最終スティントに逆転。新規格戦略をうまく使ったレース巧者ぶりを発揮、見事チャンピオンを優勝で決めてみせた。

#28「BLAST ヴィヴィオ」は惜しくも2位、シリーズも2位という結果。3位は#93「藤枝マリンダイビングアルト」が振り切りポディウムに。4位はまたまた表彰台にあと一步の#95「KHK KEI」、今シーズン4回目の4位。

5位は#69「モモヤマレーシングアルト」、6位392「Zammers ヴィヴィオ」はともに序盤の出遅れを見事に盛り返しての入賞。そして7位#112「白須賀会カプチーノ」も規定周回数を余裕を持ってクリア、全車見事に完走。

■総評

完全優勝は逃したものの、4勝に加え3位表彰台と”準々パーフェクト”、#330「DIXCEL コンパノミラ」がシリーズを制圧。ピットストップ戦略もさることながら、タイム的にも旧規格ターボと遜色ない速さを持つようになったのも勝因だ。

今のところ新規格ターボは#95のKEIがもう一台。ウワサによるとあるチームが36アルトワークスで準備を進めているとも。

来シーズンは新旧規格車入り乱れての乱戦いや乱世の予感…大きな変革の予感がするTCクラスに期待してほしい。



もう一台の VIVIO も完走 #392



予選から FR には厳しいコンディション #112



TC クラス



年間表彰



Race Report



タイトルには届かなかったが最多勝！ #23

TOクラス（軽過給機のオープンクラス）

第4戦で今年のチャンピオンを確定させた#32「爆走あばれ馬ミニカ」は欠場。
#23「Jatsun アルト」意地を見せての勝利を目指す、開幕戦以来の出場となった
#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」、さらに#777「ナルミファクトリーアルト」を加え
3台のエントリー。

■予選

ポールは#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」1' 08.924、その後ろにつけるのは、
#777「ナルミファクトリーアルト」1' 10.593、3位#23「Jatsun アルト」は1' 11.299。

■序盤

序盤から3台の意地のぶつかり合い。ほとんど差がないが#23「Jatsun アルト」が
先行、#777「ナルミファクトリーアルト」、序盤にスピンを喫した#9「テクニカ Motys
制動屋アルト」が3番手に続く。

■中盤

その後は#23「Jatsun アルト」と#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」が首位争い。そ
の後ろからうかがう#777「ナルミファクトリーアルト」という展開だったが、まず
#777に白煙発生でピットイン。続いて#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」にトラブ
ル発生、結局2台ともリタイヤとなってしまふ。

■終盤

これまでは鬼門だった中盤を乗り越えた#23「Jatsun アルト」が一人旅。全体の
ベストラップを叩き出して存在感を見せる。

■最終結果

結局#23「Jatsun アルト」が勝利。ライバルがいなくなったとは言え見事連勝。

■総評

完走が1台となってしまったが、さすがの速さを見せたTOクラス。来季に向けて
はどんなニューカマーが新たなチャレンジをしてくるかに注目。



無念のリタイヤ #777



こちらも残念 #9



TO クラス

年間表彰

